

第29回日本乳幼児教育学会@東北文教大学

2018. 12. 8

「幼児期の社会性発達を支える保育実践とは」

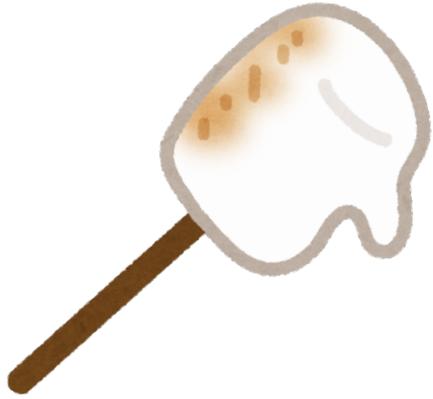
話題提供

幼児期の社会生活と自己制御

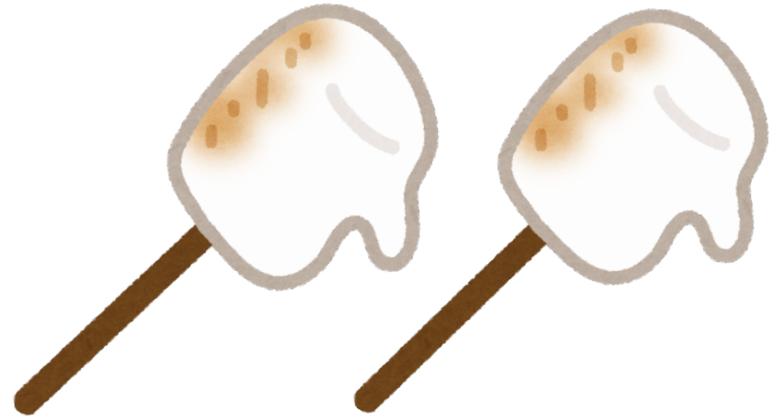
柳岡 開地

東京大学大学院教育学研究科 (学振PD)

満足遅延課題



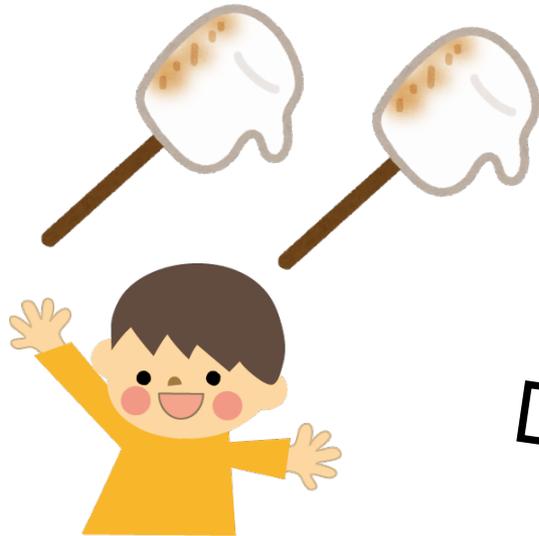
今すぐ1つ



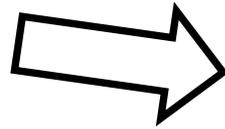
15分待って2つ



幼児



青年～成人



The Marshmallow Test
Mastering Self-Control

成功する子・
しない子

ウォルター・ミシェル
栗田裕之訳

マシュマロ・
テスト

行動科学で最も
有名なテストの
全貌を明かす
待望の書。

「マシュマロ・テストで我慢できた子どもは社会的に成功した。自制心の重要性と育て方を解説。あなたも子どもも自制心を高められる」
大竹文雄氏推薦

「自先のマシュマロをがまんする子供の意志力がその後の人生をも左右する——意志力と勤勉づけ、さらにその鍛え方をめぐる各種類書の集大成！」
山形浩生氏推薦

70分 読後感 著者/栗田裕之



(e.g., Casey et al., 2011; Mischel, 2014; Shoda, Mischel, & Peake, 1990)

子どもの自制心が将来を左右するという「マシュマロ実験」が再現に失敗、自制心よりも大きな影響を与えるのは「経済的・社会的環境」



by Blaque X

Good things come to those who wait: Delaying gratification likely does matter for later
achievement

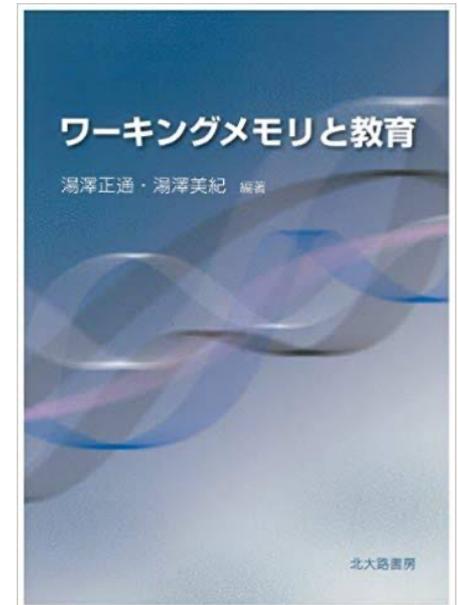
Sabine Doebel*, Laura E. Michaelson, and Yuko Munakata

Department of Psychology and Neuroscience, University of Colorado Boulder



実行機能

- 満足遅延課題の成績を左右する重要な要素の1つは、実行機能だと考えられている
- 実行機能とは、目標に向かって自らの思考や行動を制御する能力のことを指す (e.g., Miyake et al., 2000)
 - 我慢する力
 - 思考の柔軟性・切り替え
 - 記憶



しかし...

満足遅延課題

e.g., Duckworth et al. (2013)

e.g., Carlson (2005)
Diamond & Lee (2011)

?

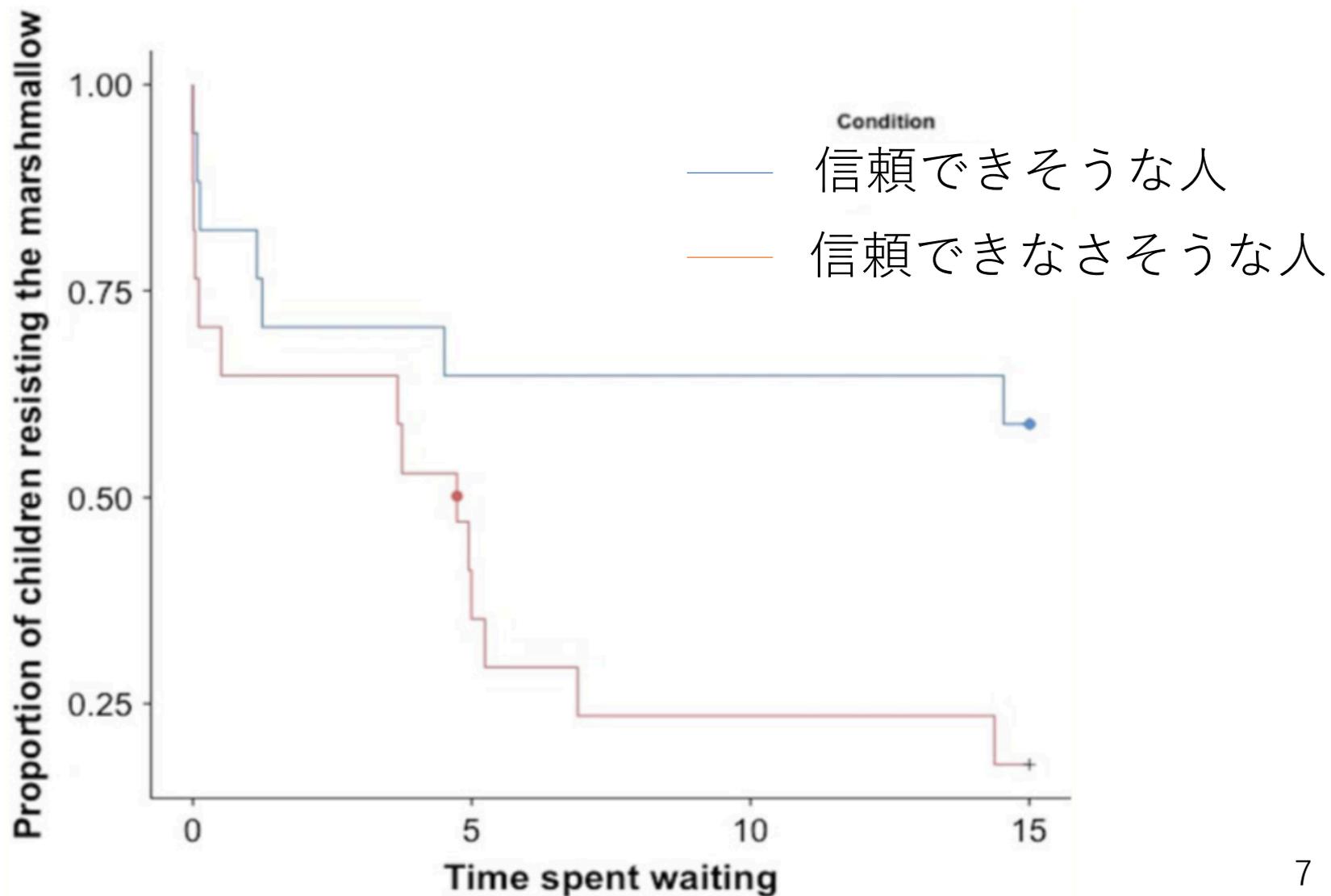
実行機能

社会的要因
状況要因

① 社会的信頼

② 集団規範

①社会的信頼と満足遅延 (Michaelson & Munakata, 2016)



②集団規範と満足遅延 (Munakata, Yanaoka et al., in press)

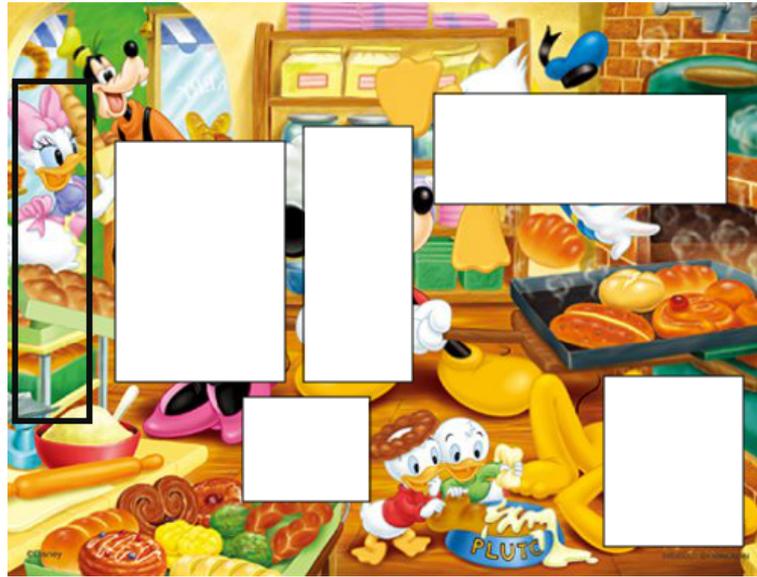
- ・ 乳児期から集団に関する情報に敏感 (Mahajan & Wynn, 2012)
- ・ 幼児期から内集団びいきが生じる (Dunham et al., 2011)
 - 内集団の行動が子どもに規範や価値を伝える可能性が高い
 - 満足遅延も内集団の影響を受ける？



② 集団規範と満足遅延 (Munakata, Yanaoka et al., in press)

Q1. 幼児期の満足遅延は内集団の影響を受けるのか？

Q2. 以前、一緒に遊んだ子どもが外集団にいる場合、その集団は“内集団的”役割を果たすのか？



イヌとネコどちらが好き？
チョコとクッキーどちらが好き？

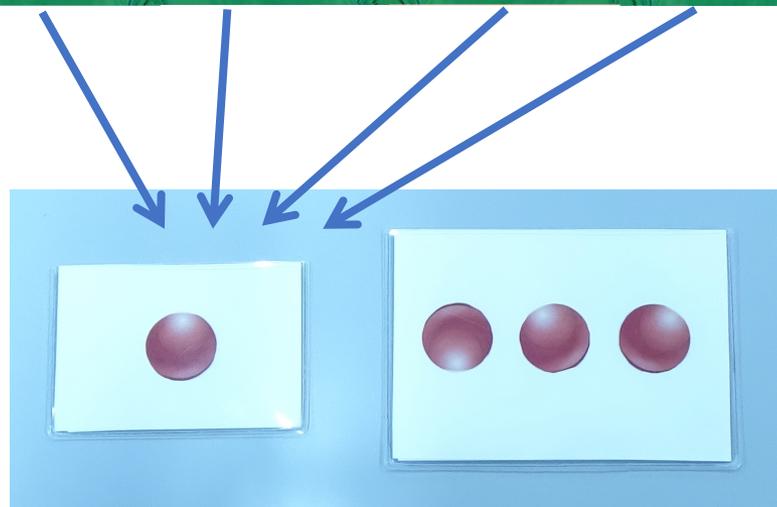
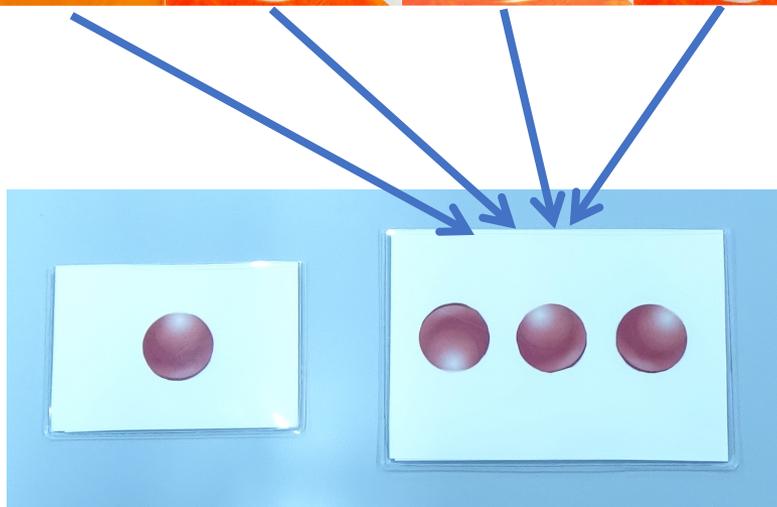


or



子どもがオレンジチームだった場合、

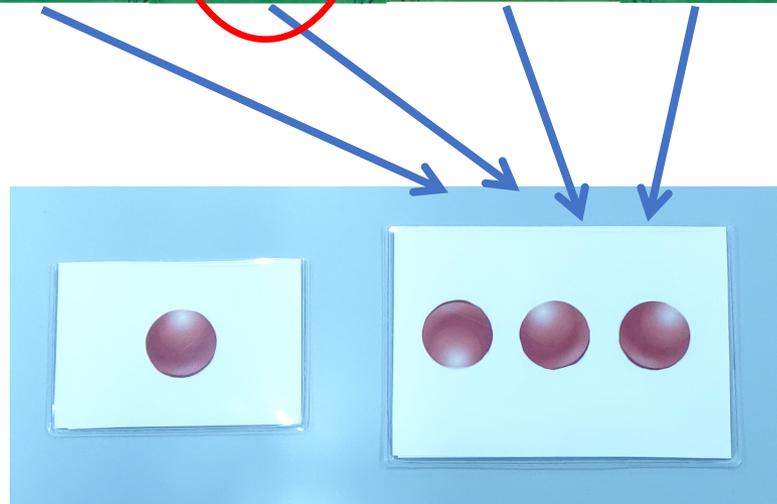
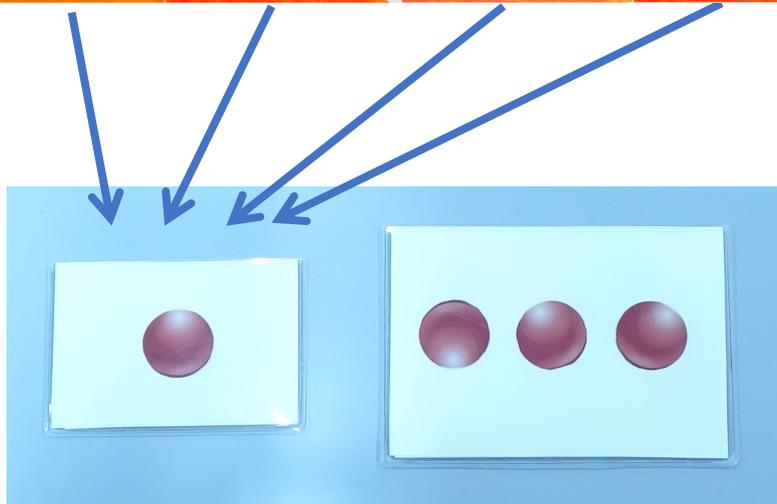
- ・内集団待つ・協力者いない条件



今シールを1枚もらう？
後でシールを3枚もらう？

子どもがオレンジチームだった場合、

- ・ 内集団待たない・ 協力者いる条件



今シールを1枚もらう？
後でシールを3枚もらう？

全体の研究デザイン (Munakata, Yanaoka et al., in press)

参加児:

日本の3~5歳児 106名 (平均月齢: 4.9)

27名 : 内集団待つ ・ 協力者あり条件

26名 : 内集団待つ ・ 協力者なし条件

27名 : 内集団待たない ・ 協力者あり条件

26名 : 内集団待たない ・ 協力者なし条件

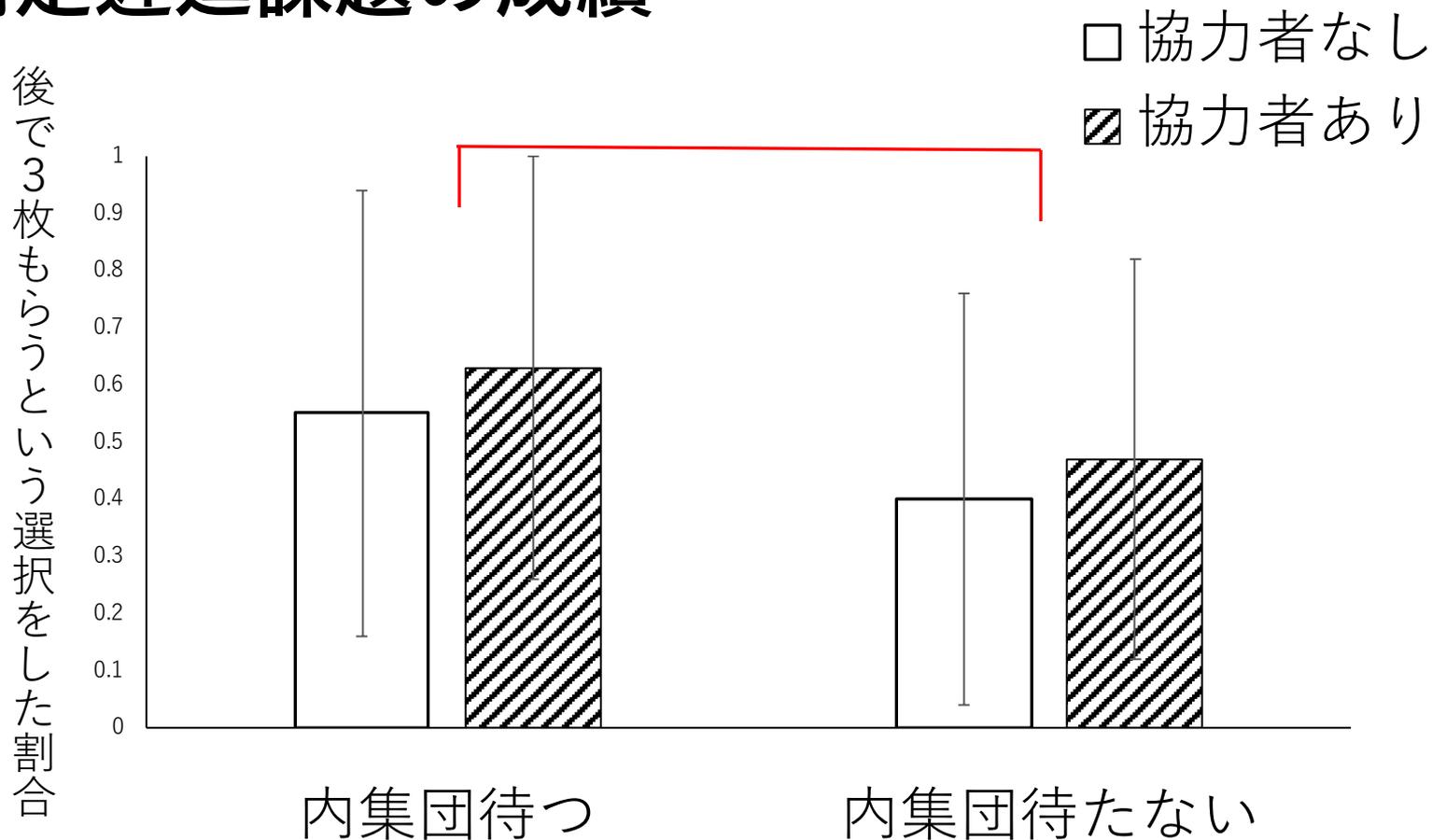
報告する指標:

満足遅延シール課題の成績 (6試行)

集団の選好 (シール課題前と後で4試行ずつ)

集団の成員への信頼感 (6試行)

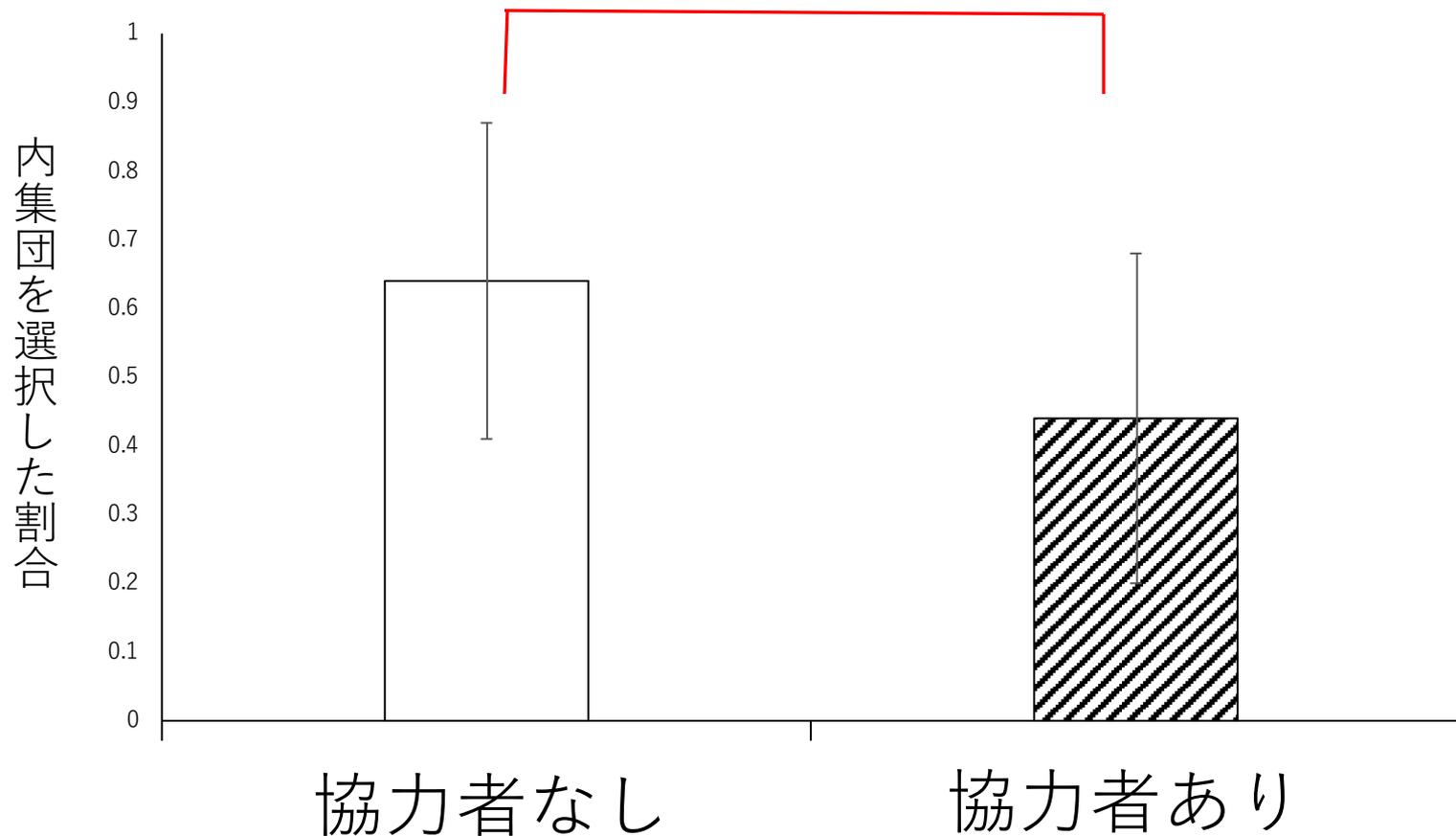
満足遅延課題の成績



集団の効果：内集団が待つ場合は、「後で3枚」の選択をよくする
協力者の効果：なし
組み合わせの効果：なし

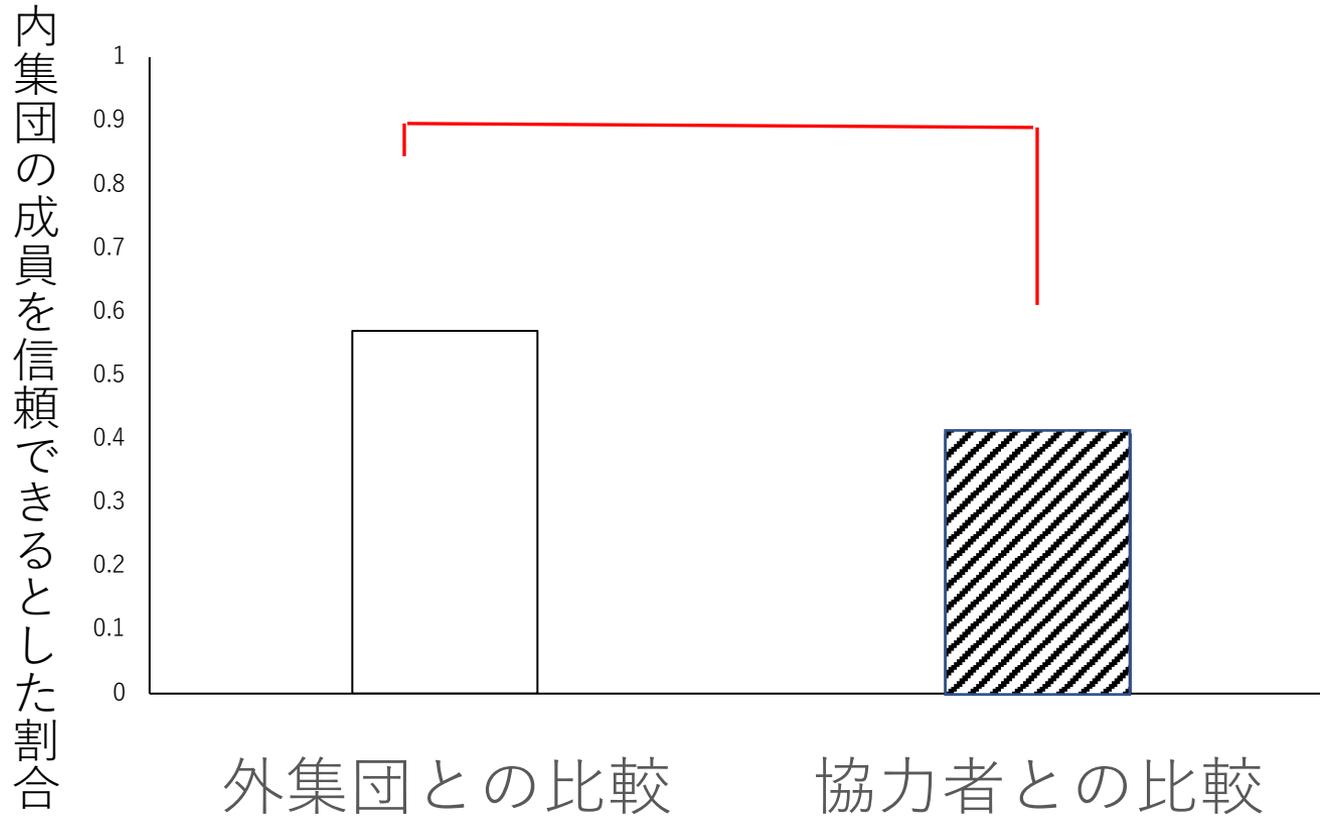
集団の選好

- ・おにいちゃんが持ってるきれいな折り紙をあげるなら誰にあげるのがいい？
- ・幼稚園でお友達を助けてあげそうなのはだれかな？



集団の成員への信頼感

この2人がおもちゃで遊んでいて、○○ちゃんも使いたいなと思いました。2人がいま使っているから後で貸してあげるよって言うてるけど、どっちの子がちゃんと貸してくれると思う？



**協力者と比較した場合は、内集団への成員へのバイアスが減る
信頼感は満足遅延課題の成績を予測しない**

② 集団規範と満足遅延 (Munakata, Yanaoka et al., in press)

Q1. 幼児期の満足遅延は内集団の影響を受けるのか？

— Yes

— アメリカでのマシュマロ課題でも同様の結果 (Doebel & Munakata, 2018)

Q2. 以前、一緒に遊んだ子どもが外集団にいる場合、その集団は“内集団的”役割を果たすのか？

— 個人のつながりは集団の選好や信頼感に影響

— シール課題には影響しない (内集団の影響は大きい)

保育実践

・ 自己制御を“引き上げる” 実践

How? : 我慢をしたりする経験を積むこと

Limitation: 新奇な場面で自己制御ができるのか

→ 個人の系に閉じた実践



・ 自己制御を“支える” 実践

How? : ① 信頼できる関係作り

: ② 自己制御的価値の集団内での共有

→ 関係性をもとにした実践



保育実践

・ 自己制御を“支える”実践

Note : ① 子どもにとっての内集団の変化

→ 今回の研究では, 目に見える形 (Tシャツ)
で集団を区別化していた

→ 子どもにとって内集団と判断する基準を
今後明確にする必要がある

: ② 自己制御的価値の内省

→ 子どもへの自己制御的価値になって
しまっってはいけない

→ 年長さんくらいでの話合い

